

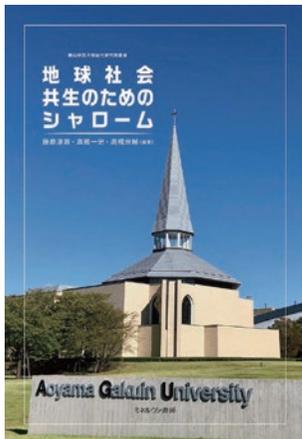
## 『地球社会共生のためのシャローム』について



大学宗教主任  
藤原 淳賀  
FUJIWARA Asuyoshi

2020年3月に、『地球社会共生のためのシャローム』（ミネルヴァ書房）を同僚の先生方と共に上梓した。青山学院大学地球社会共生学部の専任教員を中心とした研究「多元共生の思想と動態・現代世界におけるエイレーナーの探求」（2016-2018年度、青山学院大学総合研究所・キリスト教文化研究所）の研究成果である。以下、同書「まえがき」に記した内容を共有させていきたい。

この研究における「エイレーナー」、また本書のタイトルに用いられている「シャローム」は聞き慣れない言葉かと思うが、基本的には「平和」を意味している。キリスト教的平和の語として、シャローム（ヘブル語）、エイレーナー（ギリシア語）、パックス（ラテン語）がある。3年間の研究においては、社会的観点から、シオニスト的ニュアンスのあるシャロームを避け、



地球社会共生学部は、青山学院大学の第10番目の学部として2015年4月に開設された。地球社会共生学部には4つの専門領域が設けられてい

「エイレーナー」（新約聖書が書かれたギリシア語での「平和」）を用いていた。しかしキリスト教における「エイレーナー」は本来「シャローム」が持っていた内容を受け継いでいるので、出版に際しては「シャローム」を用いることにした。

。「コラボレーション領域」、「経済・ビジネス領域」、「メディア/空間情報領域」、「ソシオロジー領域」である。そしてその中心にあるのは平和的共生・共存を求めていくキリスト教的精神である。青山学院の教育方針は以下のように銘記されている。

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

地球社会共生学部、第一期生の入学式当日2015年4月1日、表参道のカフェで、同僚で初等部から青山学院出身の高橋良輔教授と、青山

学院の設立理念であるキリスト教を統合理念にいた共同研究を行いたいという話をした。まさに学部の開始初日にこの研究の構想が始まった。そして青山のキリスト教精神を深く尊重しながら研究を進めてこられていた重鎮、真鍋一史教授（現大学名誉教授）にまず相談することにした（本書の出版においてはこの3人が編者となったのだが、真鍋先生が編集上の多くの労を取り、若い研究者をご指導くださったことを記しておきたい）。そして関心のある先生方にお声掛けした。それが青山学院大学総合研究所の支援研究（キリスト教文化研究所）に採用され、3年に亘って研究会を重ねてきた（2016-2018年度）。

本研究は、各研究者がそれぞれの専門領域の研究を行う中で、扇の要のように、キリスト教的平和（シャローム）を置き、まとめた、青山学院大学地球社会共生学部らしい共同研究である。

新しく船出したばかりの学部であり、何事も始まりはそうであるが、本当に様々な問題への対処が必要であった。それに加えて、地球社会共生学部では原則としてすべての学生を半年間、語学留学ではなく正規留学として、送り出す。素晴らしい事務職員の方々に恵まれたが、担当の教員も非常に多くの責任を負わなければならなかった。多くの犠牲があった。どうしても途中で研究継続が困難になった先生方もおられた。ご無理を言っていたいただいた先生もいる。そして新たに学部に加わって来られた若手の先生方がこのプロ

ジェクトに入ってください、研究を進めてきた。どの学問領域でもそうであろうが、その本質を一言で言える人は、本当にその内容を熟知している。キリスト教の教えの中心は何であろうか？ある律法の専門家がイエス・キリストにこのことを問うている。

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」（マタイによる福音書22章36-40節）

キリスト教の教えは、神を愛すること、自分を愛するように隣人を愛することに集約される。そしてそのような生き方の性質が「シャローム（平和）」なのである。キリスト教が最も大切にして

いることは、(1)神との平和、そして(2)隣人（他者）との平和を愛を持って生きることである。そしてそれに加えて、自己受容を含めた(3)自己との平和、また神が作られた宇宙、世界、自然環境を大切に(4)環境との平和も、シャロームには含まれている。

シャロームとは、旧約聖書が書かれているヘブライ語で「平和」と訳されることの多い語である

が、非常に包括的な言葉である。戦争がなく平和であり、経済的に豊かであり、社会的正義が実現されており、文化的にも繁栄している状態、安定した社会の状態を意味する。また良好な国内及び国際関係、友好的な人間関係、健康、心の平安、安心を意味する。そしてシャロームは、神との信頼関係、愛の関係の上にあるものであり、神からの贈り物として理解されるものである。

広い意味では、シャロームには、平和構築、安全保障、民族間の共生、共存、和解、フェア・トレード、環境保全、また平和を促進する土壌づくり、人の尊厳が尊重される社会構築に含まれるあらゆるものも含まれるといつてよい。

本書においてそれぞれの研究者は、自らの研究領域で、シャロームとシャロームに含まれるそのような広い内容を共通の核として意識し、各章を執筆している。そしてシャロームの理解はそれぞれの研究者に委ねられている。

3年間の研究活動を終え、第一期生を送り出し、本研究4年めの2019年度にも出版のための研究会を持ちながら準備を重ねた。互いにアドバイスをしながら研究を進めてきたが、当然のことながら、最終稿は執筆者本人の責任で提出されている。

敬愛する先生方と共にこの研究を進めてこられたことを嬉しく思っている。

本研究および出版は、青山学院大学総合研究所の支援によって行われたものであり、そのことにも感謝を申し上げます。